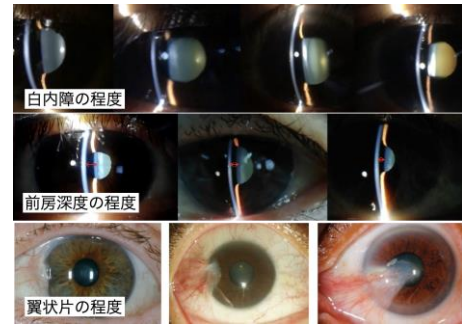


モバイル眼科検診装置



使い方：

患者の抱える疾病が目に異常をもたらす可能性がある場合はモバイル眼科検診装置を使用し、モバイルクリニックにおいて看護師が目の撮影を行う。撮影した画像を眼科検診システム（iYobow）に送付し医師は後日検診結果を受け取る。医師は結果を患者に渡し、次回診察時に眼科受診を勧める。

眼疾患は一度症状が出ると元に戻らないものもある。早期発見・早期治療が重要。しかし症状が出ないと通院につながりづらい傾向にある。

眼科専門医ではないかかりつけ医師が患者に対して説得力を持って眼科へ受診勧奨することが可能となる。

モバイル12誘導心電図



使い方：

車両内でオンライン診療開始前に看護師が測定することで情報共有クラウドで医師と共有することができる。心電図・血圧・血中酸素濃度等を同時に行う。

心電図の事前測定・情報共有クラウドへの事前共有・心電図・血圧・血中酸素濃度等を同時に行うことにより医師のオンライン診療時間の短縮が期待できる。

モバイル分娩監視装置



使い方：

腹部に分娩監視装置を装着し胎児の心拍数と陣痛の圧力を数十分程度測定する。計測データを保存し、健診終了。医師は保存された胎児心拍と陣痛の測定データを閲覧することができる。

従来のモバイルクリニック搭載機器では胎児心拍と陣痛の測定ができなかったため、妊娠後期の妊婦の健診に対応できなかったが妊娠後期のタイミングこそ通院負担が重くなることから軽量で車載可能かつ遠隔で利用可能なモバイル分娩監視装置の導入により、モバイルクリニックにおいて定期通院の困難とされている妊産婦の健診が可能となった。

現在、菜の花マタニティクリニックにて活用されている。